

特 殊 報

各関係機関の長 殿

福岡県病害虫防除所長

平成15年度病害虫発生予察特殊報第3号について

このことについて、以下のとおり送付します。

平成15年度病害虫発生予察特殊報第3号

- 1 対象作物 カキ
- 2 病害虫名 ヒメコスカシバ(*Synanthedon tenuis* Butler)
- 3 発生地域 吉井町
- 4 特殊報の内容
  - (1) 初発生確認の経緯
    - ア 近年、吉井町のカキ園で樹幹に食入し樹皮下を加害する害虫が多発したため、久留米地域農業改良普及センターが吉井町にヒメコスカシバ用のフェロモントラップを平成15年5月1日から設置したところ、12日にスカシバガが誘殺された。
    - イ 県農業総合試験場が農業環境技術研究所昆虫分類研究室の吉松慎一氏に種の同定を依頼した結果、ヒメコスカシバ(*Synanthedon tenuis* Butler)であることが判明した。(写真)
    - ウ 当防除所がフェロモントラップを設置したカキ園一帯を調査した結果、放任園で蛹の脱皮殻を確認した。(写真)  
本県でカキへの加害を確認したのは初めてである。
  - (2) 被害状況
    - ア 本種は幼虫が、主枝、亜主枝の分岐部や太枝から出た新梢の基部の樹皮下を加害する。虫糞を外に出しながら樹皮下を食害するため、食害上部は生育が悪くなり、被害枝は風などで折れやすくなる。  
一度被害を受けた部分は粗皮が荒くなるため、繰り返し産卵され被害が一層拡大する。
    - イ 被害は、クロフタモンマダラメイガの被害と酷似している。品種間差がみられ、富有、伊豆など樹皮の荒い品種の被害が多い。  
本種は主にカキを加害するが、他県ではクリやナシなどへの加害も確認されている。
  - (3) 形態・生態等
    - ア 発生回数は通常年2回と考えられ、5月上旬～6月下旬と7月中旬～9月下旬に成虫が発生する。
    - イ 成虫の開張時の大きさは、オスが14～19mm、メスが16～21mmあ

り、スカシバガで最も小さい種である。腹部の第2、4、6節の後縁部に黄色の細い帯がある。

ウ 幼虫は白色で、黒褐色の俵状の繭を作って蛹化する。羽化後の蛹殻は樹幹表面に出る残る。

クロフタモンマダラメイガの幼虫は、淡褐色で白色の繭を作り蛹となり、蛹殻は樹幹表面に出ないので、ヒメコスカシバと区別できる。

#### 5 防除上注意すべき事項

- (1) 粗皮剥ぎは、越冬幼虫の密度を低下させると同時に生息場所を減らす有効な防除法であるのでできるだけ実施する。また、被害枝は、結果母枝として利用しないようにする。
- (2) 交信攪乱剤のスカシバコンは、使用面積やほ場の立地条件により防除効果に差があるため、使用に当たっては注意する。
- (3) 防除薬剤には、有機リン剤のガットサイドSとトラサイドA乳剤が登録されている。

#### 6 参考文献

「ひと目でわかる 果樹の病虫害 第二巻」 日本植物防疫協会（1994）

「擬態する蛾 スカシバガ」 むし社 有田豊・池田真澄（2000）

「フェロモン剤利用ガイド」 日本植物防疫協会（2000）



写真 : ヒメコスカシバ成虫



写真 : 樹幹表面に残った蛹殻